REPORT

ディノス・セシールの社内チャリティイベント

CSR 活動を行っている企業は多くありますが、社員一人ひとりに CSR を自覚させることはなかなか難しく、成功例も少ないもの。そんななか、株式会社ディノス・セシールでは、ユニークな方法で社員の参加を促し、さらには地域の商店も巻き込んだ CSR 活動を実践しています。

今年の２月から３月にかけて、同社では、社内チャリティイベント「チャリティビアガーデン」「チャリティおしるこ」が開催されました。この企画は、社員有志による社会貢献ユニット「チーム DeCo（チームデコ）」によるチャリティイベントで、社員一人ひとりの「環境」や「社会貢献」のマインドを育てることを目的に始められ、今年で３年目を迎えます。

さまざまな商品を取り扱う通販会社の特色を活かして、食材やフォーク、スプーンを仕入れたり、役員からカンパを募ってビールやおしるこに合うおつまみ、トッピングを用意するなど、社員が自ら進んで準備に協力しているのも同イベントの特徴。また、ビールについては会社近くの酒屋さんから仕入れ、イベント当日はビール提供のスタッフとしても活躍いただくなど、地域との関わりを大事にしています。

「社会貢献活動」というと難しく聞こえますが、こうしたイベントであれば社員は楽しみながら参加できます。なおかつ社員同士のコミュニケーションツールとしても活用できることから、今後も継続的に開催していきたいとのことでした。ちなみに今回のイベントの売上げの一部は、昨年に引き続き、そらべあ基金にご寄付いただきました。チーム DeCo のみなさん、ディノス・セシールの社員のみなさん、ご支援いただきありがとうございました。

そらべあ基金事務局のつぶやき

東日本大震災から４年

そらべあサポーターズクラブのみなさま、こんにちは。そらべあ基金事務局の湯山です。今回レポートをお届けした「釜石 eco バス停プロジェクト」の裏で、そらべあ基金スタッフには、東日本大震災当時にお会いした方々と再会し、現在の被災地の様子をこの目で確認するというミッションがありました。

震災後、ソーラーパネルを搭載した「ソーラーパワートラック」で被災地に向かい、停電地域の電力供給を支援しました。その一つが宮城県南三陸町です。４年振りの南三陸町。仮設店舗が集まる「南三陸さんさん商店街」を訪れると、土曜日だったということもあり、たくさんの観光客でにぎわっていました。その後、高台の団地で、当時お世話になった方との再会を果たすことができました。その喜びの一方で、津波の被害の大きかった地域は依然として震災当時の姿を残しており、まだまだ復興には時間を要することを実感しました。

そらべあ基金はこれからも被災地が少しでも復興に進んでいけるよう、今回のプロジェクトのように、さまざまな形で支援を続けていきたいと思っています。

津波の爪あとを残す南三陸町の防災対策庁舎

そらべあサポーターズクラブ

プレミアムサポーター：ソニー損害保険（株）
オフィシャルサポーター：ソニー生命保険（株）、ソニーマーケティング（株）
サポーター：（株）ソニー・ピクチャーズエンタテインメント、（株）毎日新聞社
応援団：9社
個人・ファミリーサポーター：58名
（2015年4月30日現在）

読み終わったら、捨てずに回し読みしてね。

そらべあ便り vol. 22
2015 年 5 月発行
編集：加藤聡
デザイン：小池隆夫

NPO 法人そらべあ基金
〒105 - 0004
東京都港区新橋 2-5-6
大村ビル 8 F
TEL：03-3504-8166
FAX：03-5157-3178
http://www.solarbear.jp

そらべあ便り

Sorabear Newsletter | Vol.22

震災から
4年のいま

www.solarbear.jp

REPORT 東京造形大学 × そらべあ基金 そらべあ環境ワークショップ【きよせ幼稚園／小平姫百合幼稚園】

そらべあ基金理事・山際康之東京造形大学教授の研究室が運営するエコプロジェクトでは、幼稚園児を対象に、そらべあの人形劇と歌、ダンスを交えた「そらべあ環境ワークショップ」を実施しています。6年目を迎えたワークショップの参加者は、これまでに約1900名を数えます。2月末から3月上旬にかけては、都内2ヵ所の幼稚園を訪問し、新たに428名の園児たちが、そらべあの世界を体験しました。

人形劇は、氷が割れ、お母さんと離ればなれになってしまった「そら」と「べあ」の前に、太陽、風、花、木の4人の妖精が現れるという学生考案のオリジナルストーリー。妖精たちは、お母さんともう一度会えるようになるためには、電気のムダ使いをやめることが必要だと語りかけます。そして、家から一歩飛び出して遊べば、太陽の温もりや風を受ける心地よさ、花の香りや木の力強さを感じられるとも――。

複雑な環境問題をわかりやすく伝え、時には体を動かしながら理解を深められるその内容に、子どもたちの表情は明るく、終始笑顔が見られました。東京造形大学のみなさん、きよせ幼稚園、姫百合幼稚園のみなさん、ありがとうございました！

上：妖精たちの質問に手を上げて答える子どもたち　小平姫百合幼稚園（中）、きよせ幼稚園（下）のみんなとハイチーズ！

REPORT KDDIとそらべあ基金が釜石市で環境教育を開催！

3月22日、そらべあ基金はKDDI株式会社とともに、釜石市内のバス停に太陽光発電設備を設置する「釜石ecoバス停プロジェクト」を実施しました。バス停は、KDDIが2012年に釜石市に寄贈したもので、地元の森林の間伐材が使用されています。今回、そらべあ基金が協力し、2ヵ所のバス停に太陽光発電設備とLED照明の設置、さらには地元の小学生たちへの環境授業を行いました。

プロジェクト当日、会場となる釜石市役所には、釜石市内の小学生14名とその保護者の方々が集まりました。環境授業の1時限目は「森と太陽の教室」。地球温暖化の原因の1つであるCO_2を吸収してくれる森と、CO_2排出を抑制する再生可能エネルギーの役割について、クイズを交えてわかりやすく説明しました。

続いて2時限目は「太陽光発電システムの組み立てワークショップ」。太陽光パネルを実際に触るのは、大人も初めてという人がほとんどのなか、ドライバーを使って、パネルとバッテリーなどを、ケーブルをつないでいきます。完成後は、本当に電気が使えるかどうか、スマートフォン「Xperia™」を充電して試しました。

その後、場所を市役所前のバス停に移し「太陽光発電システム設置セレモニー」を開催。野田武則市長も加わって記念プレートを設置したのち、参加者全員で記念撮影を行いました。

子どもたちからは「釜石にも自然エネルギーになる材料がたくさんあることがわかった」「クイズが楽しかった」などの感想をいただきました。新たに太陽光発電&LED照明が設置されたバス停は、地域や人々の心を明るく照らしてくれることでしょう。

INTERVIEW 寄贈したバス停をさらに有効活用するために「釜石 eco バス停プロジェクト」

KDDI株式会社プロダクト企画本部CS推進グループリーダー井上直子さんと同グループ柳良樹さんに、今回のプロジェクトについてお話をうかがいました。

2012年に釜石市へバス停を寄贈した時のお話をお聞かせください

井上さん　KDDIでは携帯電話の取扱説明書をリサイクルする活動「トリサイプロジェクト」を行なっています。古紙を回収し、売却したお金は森林保全に活用していますが、被災地支援の一環として地元の間伐材を使ったバス停を寄贈することにしました。その際、地元の方から「夜間は街灯も少なく暗いので、太陽光発電で照明をつけてほしい」と要望があったのですが、当時は残念ながら予算とノウハウがなく見送ることになりました。

昨年秋頃、そらべあ基金へお声がけいただきました

井上さん　もともと「どんぐりポイント（※）」を通じてそらべあ基金が太陽光発電設備の寄贈や環境教育を行っている団体であることは知っていたので、ご相談させていただくことにしました。

今後、バス停を活用した取り組みなどは予定されていますか？

井上さん　今回は寄贈した5ヵ所のバス停のうち、2ヵ所に太陽光発電設備を設置したので、残りの3ヵ所への設置も目指したいですね。

柳さん　KDDIは通信の会社ですが、通信は電気ありきのものです。今後はWi-Fiなどの通信設備とも、太陽光発電を結びつけていきたいと考えています。今回のプロジェクトはその第一歩でした。

バス停と太陽光発電と通信で、まだまだ活用の場が広がりそうですね！　今後のKDDIさんの活動が楽しみですね。

※本プロジェクトは経済産業省が推進する「どんぐりポイント」を一部使用しております。どんぐりポイントは、CO2の排出量を減らした製品やサービスについており、ポイントはエコ商品と交換して地域で役立てたり、環境団体に寄付してエコ活動に貢献することができます。

sorabear
そらべあ
calender
2015

©Shinzi Katoh

5

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				